

榊原病院

Monthly

Vol.66
2023.December

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

鬼塚 俊明(おにつか としあき)

略歴

1991年 九州大学医学部卒、九州大学精神科神経科入局
2000年 米国ハーバード大学医学部精神科研究員
2004年 九州大学病院精神科神経科助教
2008年 九州大学病院精神科神経科講師
2015年 九州大学大学院医学研究院精神病態医学(精神科神経科)准教授
2021年 九州大学大学院医学研究院神経画像解析学教授
2023年 国立病院機構榊原病院特命副院長を経て、院長就任



診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症
専門外来
- こころのリスク外来

病床数 175床

- 精神科病棟 157床
- 医療観察法 18床
- 強度行動障害ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

榊原病院に赴任して半年が経ちました

栄養管理室長 若松 俊孝

皆様、初めまして。三重中央医療センターより転勤してきました若松俊孝と申します。私は、長年病院栄養士として勤務して参りました。これまでは、富山を振り出しに名古屋医療センター、国立長寿医療研究センターなどで主に栄養管理に従事しました。その栄養管理の中でも、主に献立作成業務を行ってきました。

私達病院栄養士は、患者様に衛生的で美味しい食事を提供することが何より重要な仕事です。特に長期に入院している患者様にとっては食事が何より楽しみな方もいます。従いまして、献立作成には特に力を入れます。美味しい食事を提供できているかどうかは、日々の食べ残し、試行調査のアンケートなどで結果がわかります。これまで病院では、良い結果も、悪い結果も半々くらいでした。ある程度の材料費が決められているので、高価な食品の取り扱いはなかなか難しいです。

私は日頃から病院の食事には旬な食品を意識して献立に入れてきました。旬な食品は高価なものばかりではありません。旬の食品を入れることにより、味で今の季節がわかり、日本の四季を実感してもらうことができれば嬉しいです。以前、部下から「若松さんが作る献立は自分は好きですよ」と言われたこと、今でも忘れられません。患者様が同じような気持ちになってくればいいと思います。

さて、ここで榊原病院の病院食のお話になります。当院の病院食は、全面委託のため、献立も委託しているところではありますが、事前に翌月の献立の確認をする際には、そろそろ温かい献立を入れようか、旬の果物などの提案はできます。あとは、事前に味の確認なども行っています。今現在は、どの病院も材料の高騰のため、材料費が上がっていますが、工夫すれば安い食品でも美味しい献立は作成できます。

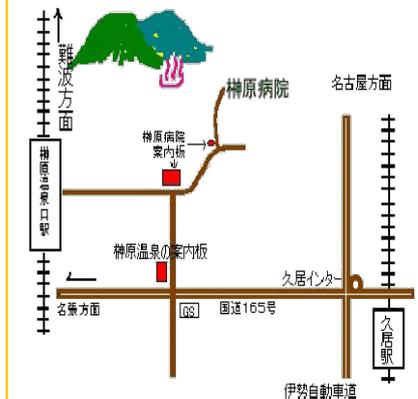
30年前、名古屋の病院でしたがその時の病院食は栄養だけを補給する献立でした。ですが、今は病院食の献立が本にされるまで美味しく、健康にいい食事になりました。榊原病院の食事にも本にされるまでとは申しませんが、食べ残しの少ない病院になるように努力していきたいと思っています。

トピックス

- 市民公開講座（Webセミナー）のお知らせ

行事・出来ごと

「気づいたら…依存？ ～実は身近な～ 依存症～」をテーマに、令和5年12月15日（金）13時よりWebセミナーを開催します。
参加無料・事前予約は不要です。ご興味のある方は、榊原病院ホームページをご覧ください。



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き) 約30分

自動車/ 久居インターより約20分

マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和5年10月までに全症例は145例となりました。新規導入は10月1例、11月0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。



〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。

デイ・ケア案内



デイケアは南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。

日中に通う場所を持つことで、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したりする効果があります。利用者の皆さまは、リハビリに向けて、プログラムに取り組んだり、他の方々と一緒に活動したりされています。とはいえ、何かに向かって進むだけがリハビリではありません。デイケアを利用しながら、のんびりと休憩を取っていただくことも大切な時間だとスタッフは考えています。

デイケアを利用される方は、1日あたり10人～20人です。10代から80代まで、幅広い年代の方々がいらしゃいます。様々な世代の方が一緒に過ごしておられる姿が見られることも、デイケアの特徴の一つです。運動、ヨガ、レクリエーションゲーム、コミュニケーション、SST、カラオケ、アート等様々なプログラムがあり、それぞれの方のニーズに合わせて活動いただいています。病院のホームページや、外来に月間プログラムがありますので、どうぞご覧ください。



12月はクリスマス飾りを作りました。今月はお菓子作りもありました。



スパイスで作るインドカレー。ラッシーも作りました。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム



正月太りを防ぎましょう！

年末年始はクリスマス、忘年会、お正月、新年会など食事に関わるイベントごとが続く時期で、なおかつ冬場は夏場に比べてエネルギー消費量が低くなり、体重が増えやすい時期とも言えます。今回は正月太り対策についてご紹介します。

《体重測定の習慣をつけましょう》1日1回体重を測るクセをつけましょう。《体を動かしましょう》暖かい部屋でついダラダラしてしまう方多いのではないのでしょうか。意識的に体を動かしてカロリーを消費しましょう。年末の大掃除は運動にもなって一石二鳥かもしれません。

《バランスよく食べることを意識して！》炭水化物・脂質過多になりやすい食事の時も野菜から食べること、ゆっくりよく噛んで食べることを意識して食べすぎを防ぎましょう。年末年始の体重管理で、健康的な1年のスタートを切りましょう！